

【瀬谷区】令和3年第2回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和3年6月11日 10時00分 ～ 11時40分
場 所	瀬谷区役所5階 大会議室
出席者	<p>【座 長】花上喜代志議員</p> <p>【議 員： 2名】川口広議員、久保和弘議員</p> <p>【瀬谷区：32名】植木八千代区長、村上謙介副区長、 高野つる代福祉保健センター長、 伊藤ゆかり福祉保健センター担当部長、 木村裕毅土木事務所長、ほか関係職員</p>
議 題	令和3年度 個性ある区づくり推進費自主企画事業執行計画
発 言 の 要 旨	<p>川口議員：区長が就任して2か月が経過するが、瀬谷区の印象について所感を伺いたい。</p> <p>植木区長：この2か月の間、地域の方々とも様々お話をさせていただいた中で一番の心配事はコロナに関することであると感じている。その中でも、昨年はコロナ禍で思うような活動ができなかったが、今年は何とか活動を再開できないかという思いを持たれている方が非常に多い。例えば直近では瀬谷駅南口の再開発に合わせて何か盛り上げができないだろうかとか、6年後の国際園芸博覧会開催に向けた機運醸成のために区としていろいろ取り組んでいけないだろうか等、地域の方も何とか瀬谷区を盛り上げていこうという温かい気持ちを持っていただいているというのが所感である。区の運営方針でも定めているが、瀬谷区に住んでいる方、働いている方が瀬谷区で幸せになることができたと思えるように区として取り組んでまいりたい。</p> <p>川口議員：瀬谷区を取り巻く環境の変化の只中であつての区長就任であり、コロナ対策など様々な困難な課題があるが、我々議員と一体となつて瀬谷区を盛り上げてもらいたい。</p> <p>コロナウイルスワクチンの接種会場に何度か足を運んだが、6月中旬にも入り大きな会場ということもあり熱中症が懸念される。会場での熱</p>

中症対策について伺いたい。

鈴木総務課長：ワクチン会場についてはロビー、研修室、第三体育室等は空調が入るが、第一体育室は残念ながら空調が入らないため、空調が入る場所から大型扇風機で冷風を送ったり、体育館の中の温かい空気を外に逃がすように扇風機を設置する等の対策を講じている。またその他にも会場内に何箇所か扇風機を置く等、熱中症を予防するための環境改善に向け工夫をしている。

川口議員：ワクチン接種を受ける方は比較的短時間の滞在であることから熱中症にかかる可能性も小さいが、会場に長時間滞在する医療従事者に対してはどのような対策を行っているか。

鈴木総務課長：医療従事者、特に医師のブースは狭いということもあり、要望もあつたことから小型の扇風機を中に設置する。

川口議員：今後更に暑くなる時期を迎えるので注意してもらいたい。

新しくデジタル推進特別委員会が設置され、自身も委員として選任されたが、今週月曜日開催された委員会において1年間取り組んでいくテーマがペーパーレス化とオンライン会議の推進に決定した、前回の区づくり推進市会議員会議においても確認したが、区役所とデジタル統括本部の関係性について改めて伺いたい。

植木区長：デジタル統括本部においても、市の会議体として、各区局長を委員として議論を行っている。区によって様々な取り組みを進めている、また施設的な問題もあることから、今後18区が3ブロックに分かれてデジタル統括本部との間で意見交換を行っていくという状況である。

川口議員：デジタル統括本部はまだ設置されたばかりということもあり、横浜市の中でどのように位置づけられ、どのようなことを推進していくのかという点については、これから明らかになっていくものと思われるが、区民に身近な区役所とデジタル統括本部の関係性は非常に重要であるという印象を持っている。今後会議でどのような議論が交わされるのか、区役所の意見がどれだけ反映されるのか見定めなければならないが、瀬谷区のデジタルに関する課題についてデジタル統括本部に直球を投げられるような関係性を今の段階から築いてもらいたい。

今回の区づくり推進市会議員会議に関しては、戸塚区や青葉区ではZoom等を活用し、鶴見区ではハイブリッドで開催していると聞いている。瀬谷区においてもZoomの利用を検討していると聞いたが状況を

伺いたい。

植木区長：今回もコロナの感染状況によっては、オンラインによる会議開催もあり得ることについて予め相談させていただいた。今後の進め方については、顔を合わせて対面で行うことが必要な場合とオンラインでなるべく早く情報共有を行うことが必要な場合があるが、会議の趣旨等に鑑みてその時々で相談をさせていただきたい。感染が拡大している状況下で区役所に足を運んでいただき、またこれだけの人数の職員と一堂に会することについては考えなければならないことから、事前に開催方法についてお諮りしたところである。

川口議員：デジタル推進特別委員会に所属しながらも、何もかもをデジタルにすればよいということではないと感じている。しかし、コロナ禍や時代の趨勢として取り込んでいかなければならない分野であることは間違いない。会議にもデジタル化することで進む会議と進まない会議があるが、そこは今後会議の開催を通じて見極めなければならない。確かにリスクはあるが、取り組みを進める中で見えてくるものもある。区役所で行う様々な会議やイベントにおいてデジタルを活用するという意識を持つことで、瀬谷区版のデジタルの活用方法を見出してデジタル統括本部にフィードバックすることもできることから考慮してもらいたい。

コロナ禍において図書館はどのような感染症対策をとっているのか、また図書館利用者数の状況について伺いたい。

小泉瀬谷図書館長：昨年度はコロナによる一時休館期間もあって全体的に利用者数は減少した。再開後は毎日午前中1回、午後2回館内放送で注意喚起を行っている。また利用者向けには受付に消毒液を置き、貸し出し時に本を除菌するための装置を設置している。そのほか派遣会社による館内消毒作業を随時行っている。

川口議員：様々な自治体で電子書籍の利用が進んでおり、瀬谷区でも雑誌が読める媒体が置かれているが、利用状況について伺いたい。

小泉瀬谷図書館長：電子書籍はdマガジンを置いているが、昨年6月のサービス開始から令和2年度末までのアクセス数が352件、閲覧された雑誌は226冊である。dマガジンは瀬谷区独自の取り組みであるが、このほかに4月からは市立図書館全体で電子書籍サービスを開始し、2点まで2週間という条件で貸し出しを行っている。

川口議員：実施してみなくては分からないところがあり、年配の方に受

け入れられるのかという懸念はあるが、若年層に図書館に来館してもらうきっかけにもなり得ることから、電子書籍の取り組みを活発に推進してもらいたい。

ワクチン接種の予約において、高齢者の多くがデジタルに慣れていない、スマートフォンやインターネットを上手く扱えないことから電話に殺到したことは国の対応として社会的課題であった。こうした年配の方について今後デジタルの水準値を上げるための努力については、デジタル統括本部でも話し合いが行われていると聞いている。広報せやにZ o o mの講習会に関する記事が掲載されていたが、どのような経緯で開催することになったものか。

岩上地域振興課長：講習会は昨年度末から企画をしていたもので、対面型の集会等が難しくなってきたことから、Z o o mの活用について周知するとともに、デジタル化に少しでも関心を寄せていただきたいという趣旨で開催した。昨年度はリアル会場も用意したが感染状況を考慮してできなかったため、今年度はリアルの部分も含めて改めて今月下旬に開催する予定としているが、まん延防止等重点措置の適用状況も鑑みて開催方法について検討してまいりたい。

川口議員：デジタルを活用するための手段について、広報せやを通じて積極的に区役所から区民に対して発信していくことは非常に大きな影響力があると思う。講習会が開催されることを祈りつつ、まずは広報を通じて区役所としての姿勢を示すことは、これから変化の時期を迎える瀬谷区において大きな意味がある。また開催された場合、実際の講習会の状況についても改めて教えてほしい。

農福連携に関して、実施場所は決まっているのか。

吉川福祉保健課長：瀬谷区内の農地を対象とし、具体的な場所についてはこれから検討してまいりたい。

川口議員：福祉の部分で参加者はどういった方か。また、どういった所に声掛けをするのか。

吉川福祉保健課長：主に障害者団体の社会福祉法人を予定している。その他にも幅広く参加できるよう検討を進めたい。

川口議員：農福連携はSDG s、共生社会も含めて考えると今後重要なキーワードになってくる。国際園芸博覧会を開催する瀬谷区において、既に農福連携、共生社会を実現していることを区役所から発信していく

ことは大きな意味を持つ。基本的に野菜や果樹を想定しているのか。

吉川福祉保健課長：他都市の状況を見ると野菜や果樹が多いが、例えば小麦を栽培してパンを焼くことなども考えられることから、何を栽培するかこれから検討したい。

川口議員：泉区では先行事例があるようだが、泉区との情報交換は行っているのか。

吉川福祉保健課長：今後行ってまいりたい。

川口議員：瀬谷区には農地が多くあり、野菜や果樹の栽培が盛んであると同時に阿久和地域では畜産も行われている。農福連携の対象として畜産はイメージしづらいと言われがちだが、実際は非常に相性が良いという話も聞く。これから検討のテーブルの上にいるいろいろなものが載せられるのであれば、畜産も入れることで瀬谷区の独自性が発揮できることから検討を進めてほしい。

国際園芸博覧会のガイドブックを作成するとのことだが、ターゲットは誰を想定しているのか。

堀内区政推進課長：観光ガイドとタイアップを考えており、主に20～30歳をターゲットとして考えている。国際園芸博覧会の認知度が比較的低い若年層の方に対する効果的なPRを狙ったものである。

川口議員：20～30代ということだが、瀬谷区に住む方なのか、瀬谷区外に住む方なのか、それとも両方を含めた方なのか、ターゲットは絞り込んでいるか。

堀内区政推進課長：地元の区民に来場してもらいたいのは勿論だが、広くお越しいただきたいことから、地域によるターゲットの絞り込みは行っていない。

川口議員：20～30代に対して果たしてガイドブックが適したツールであるかということについては疑問を感じる。例えば同じ予算を動画に回したり、他の媒体を活用するということについて想定しているか。

堀内区政推進課長：ガイドブックのデータをホームページに掲載したり、広報動画をYouTubeに公開するなどチャンネルを増やして、市内あるいは県内だけでなく全国の方に認知してもらえるような工夫をしてまいりたい。

川口議員：20～30代に対しては、手に取る冊子よりも、データを閲覧することの方が訴求力がある。YouTubeでチャンネルを作って動画

を公開する場合、スライドショーでは絶対見ないので、しっかりとした動画を作成する必要がある。ガイドブックを作るのと同時に動画ではどのようなものを作ることができるのか、今の段階から検討を進めないと国際園芸博覧会が非常に陳腐なものにもなり兼ねない。そのくらい広報は重要であることから、動画等についても検討をより進めてほしい。

フードドライブに兼ねてから取り組んでいるということだが、受付状況について教えてもらいたい。

澤野資源化推進担当課長：一昨年までは瀬谷フェスティバル等の大きなイベントの際に周知をして提供を受けていた。今年の10月からは区役所と資源循環局において常設で受付を始めた。

川口議員：受け付けた食料はどのように配るのか。

澤野資源化推進担当課長：受け付けたものは瀬谷区社会福祉協議会に持っていき、そこから必要な団体に引き渡している。

川口議員：これもSDGsに関連するもので、世界的にもフードドライブは注目を集めている。素晴らしい取り組みであり、国際園芸博覧会が開催される区でこのようなことが既に実行されていることが大きな話題の種になるのではないかと。当然話題の種のために行っていることではなく、しっかりと生活を支えていくことが重要であるという意識を持って取り組んでもらいたい。

久保議員：先ほど区長からも所感を述べてもらったが、今のトピックはワクチンであり、区民からも毎日要望や相談が寄せられている。今後ワクチン接種にどのように取り組んでいくのか。

植木区長：横浜ハンマーヘッドでも大規模接種が開始され、様々な場所でワクチン接種が可能になっていっているが、特に高齢者についてはかかりつけ医で接種を受けることが本人にとって最も安心であり、安全であると考えている。資料にも掲載しているが、現時点で接種可能であることを公表している医療機関が区内には16あり、以前に比べて随分増えてきている。これ以外にも公表を行っていない医療機関もあることから、まずは自身のかかりつけ医に相談して欲しい旨、広報を行ってまいりたい。また、かかりつけ医を持たない方に対しては、なるべく身近な場所として、引き続き集団接種会場である瀬谷スポーツセンターを利用していただくため、一昨日から瀬谷駅からも直通のシャトルバスの運行を開

始した。

久保議員：スマートフォンやパソコンを使えない高齢者がワクチン接種の電話予約に殺到したこともあるので、しっかりと対応してもらいたい。

生活困窮の相談も多く受けている中で、個人事業主であれば経済局の支援メニューを案内したり、IDECを紹介しているが、個人からは生活保護に関する相談も増えてきている。前回の会議において、家賃の支払いが困難になった方からの住宅確保給付金の相談が多いとのことだったが、現状はどうか。

結城生活支援課長：住宅確保給付金に関する相談・申請は依然として多くある。本来は3か月を目途とした短期間の支援を想定した給付であったが、延長、再延長、再々延長され、現在は今年の9月まで再申請が可能となっている。

久保議員：個人的な印象として、支払いが立ち行かなくなる間際になって初めて相談する方が多いように感じる。支援を必要としている方を1人も取りこぼさないという気概で取り組んでもらいたい。

認知症に関する相談も多く受ける中で、コロナ禍で外出自粛になったことで、これまで元気だった方が急に認知症の症状が出てきた、あるいは症状が進行したという話を聞く。また健康を害してお亡くなりになった方もいる。区内には認知症の方がどのくらいいるのか、またどのような声が届いているのか伺いたい。

門脇高齢・障害支援課長：認知症患者数については、別途確認しお伝えすることとしたい。コロナ禍で家に引きこもることで身体的機能が低下したり、認知症を引き起こす原因となっているが、これまでサロン等の活動を休止していた民生委員についても、現在は感染症予防対策を講じながら、食事を自宅に届けたり、訪問もドア越しに行う等の工夫をしながら活動を再開し、認知症等への予防策を行っている

久保議員：様々な声が寄せられていると思うが、市も認知症疾患医療センターを増設し、ようやく2区に1施設の体制となり、身近な場所で診療ができるようになりつつある。認知症カフェ等もあるが、地域と情報をしっかり共有する仕組みを整備していかなければならない。自身が受けている相談の中には、家族や地域の認知症に対する理解不足から虐待に至っているようなケースもある。高齢化社会が進展していく中で、認

知症を含めた様々な課題があるが、地域と区役所がしっかり情報を共有できるように引き続き取り組んでもらいたい。瀬谷区では独自の啓発グッズを作成することだが、どのようなものか。

門脇高齢・障害支援課長：啓発グッズは様々あるが、昨年度からは認知症に対する理解を呼びかけるマグネットシートを作成し、介護保険事業者や区の公用車に貼り付けている。また、認知症が疑われるような症状がある高齢者を持つ家族向けのチェックシートを作成し、かかりつけ医への相談に繋げるために役立ててもらっている。他にも医療機関、居宅介護支援事業所、民生委員等から構成される関係協力機関を立ち上げ、認知症とみられる方を見かけたら包括支援センターや区役所に連絡をしてもらおうこととしているなど、様々な機会を捉え、認知症の方をキャッチし、支えるための取り組みを行っている。また、厚生労働省で進めているもので、認知症に対する正しい知識や理解を身に着け、地域や職域で認知症の方やその家族を手助けする役割を担っていただくための認知症サポーターの養成に瀬谷区でも平成18年から取り組んでおり、これまで延べ13,232人が養成講座を受講している。受講者に対してはこれまで支援の目印としてオレンジリングと呼ばれるリストバンドを渡していたが、今年度からは認知症患者に接する際の心得やポイントが書かれたカードを渡している。

久保議員：認知症は早期発見。早期治療が有効であるので引き続きしっかり取り組んでもらいたい。

県営阿久和団地の方々とも意見交換する機会が多いが、団地では高齢化が進む一方で退去による空き家が増加し、それがさらに高齢化に拍車をかけるという負のスパイラルに陥っていて、自治会の運営が困難になる、あるいは自治会の収入が減少するという課題を抱えている。こうした状況もあることから、ぽかぽかプラザを拠点とした阿久和南部地域の支え合い推進事業の内容について伺いたい。

門脇高齢・障害支援課長：ぽかぽかプラザは県営阿久和団地内に設置しているものであるが、昨年度はコロナの影響により、開設日数が通常の半分程度となり、上手く機能していない面もあった。今年度は感染症対策を講じながら、交流や支え合いの拠点としてしっかり活動してもらうために必要な支援を行ってまいりたい。

久保議員：地域からの声も踏まえて、引き続き取り組んでもらいたい。

瀬谷区の魅力発信に関連し、国際園芸博覧会の広報ツールとしてガイドブックの作成の他にも、ターゲットが若い世代ということであったので SNS を通じた魅力ある情報発信を行ってほしい。併せて定住促進の取り組みを行うということだが、コロナ禍で新しい生活様式が浸透し、メディアでも郊外部が持つ魅力がクローズアップされている。また、世間では新しい働き方としてワーケーションやブレジャーという提案がされている。瀬谷区への定住促進のために住宅情報ポータルサイトと連携することとしているが、内容を伺いたい。

堀内区政推進課長：特に 20～40 代前半の子育て世代をターゲットとし、若年層に利用されるインターネットを活用した広告を考えている。具体的には住宅情報ポータルサイト運営事業者と連携し、定住を考える方に対し訴求力のある瀬谷区の魅力やニーズについて分析し、瀬谷区に居住するメリットや実際に居住を始めた方に対するインタビューを掲載した特設サイトを作成し、効果的に PR してまいりたい。

久保議員：瀬谷区の魅力は様々あるが、国際園芸博覧会とリンクして PR してもよいのではないか。

コロナに関連して、瀬谷消防署における搬送困難な救急事例の状況や課題等について伺いたい。

増山瀬谷消防署副署長：瀬谷消防署では陽性者 88 人を搬送している。署員から 2 人感染者が出ているが、救急出動の際にはしっかりと感染対策を行っているため、現場での感染として特定されてはならず、感染経路は明らかになっていない。

久保議員：搬送困難事例に関する懸念についてはどうか。

安平瀬谷消防署長：国が定義する搬送困難事例とは、病院連絡 4 回以上で現場滞在が 30 分以上かかったもので、報道によると他では 5 時間、6 時間かかったケースもあったようだが、瀬谷区では幸いそこまでの事例は発生していない。区内の搬送困難事例は 1 月の感染者数が増加した時期に比べて 3 月には減少し、以降徐々に改善傾向にある。今後の感染状況によっては、再び医療機関がひっ迫する状況にもなり得ることから、依然予断を許さず慎重に対応してまいりたい。

久保議員：救急隊は苦勞が多いと思うが、引き続き区民の生命を守ってほしい。

区提案で三ツ境駅のバリアフリーが挙げられてるが、党の市議団とし

でもこれまで提案し推進してきたところである。北口についてもバリアフリー化に関する様々な議論が行われていると思うが、区としての要望は出しているのか。

井深瀬谷土木事務所副所長：三ツ境駅のバリアフリー化については、昨年度から地域等から様々な要望を受けており、道路局とも連携しながら今後検討を進めてまいりたい。今回の区提案は3年度の事業に関するものであるが、4年度に向けては現在検討中である。今年度、局においてバリアフリー化に向けた検討のための予算をつけており、連携を図っていきたい。

久保議員：地域からは、南口にエスカレータが昇りしかないことから増強を望む声や道路局とも話をしているが相鉄ライフの段差解消は課題として認識している。さらなるバリアフリー化に向けて検討を進めてもらいたい。

また国際園芸博覧会に合わせて瀬谷駅の拡充が行われるが、その際に相鉄線ホームの屋根を車両の長さに合わせて延長してもらいたい。北口のバスターミナルについても、車椅子利用者のマークが一番奥にあるため、車いす利用者が降車後に横断歩道を渡らなくてはならなかったり、屋根がないため雨に濡れてしまうことについて改善を望む声があることから要望したい。

花上議員：正体不明の新型コロナウイルスにより世界的なパンデミックが起これ、日本でもおおあらわで対応に迫られている。瀬谷区長として就任してからこの2か月間、大変慌ただしく区政を推進してきたと思う。また、区役所は区民の命と暮らしを守るという大きな使命を担っており、区職員も新型コロナウイルス対策により従来とは違った区政を進めるに当たって苦労したと考える。区長として区政全体を見直し、率直な感想を伺いたい。

植木区長：昨年2月から昨年度末まで一体何が起こるかわからないといった状況の中、区民の方や職員が感染を防ぐための取り組みを進めてもらった。感染予防にしっかり取り組んでもらったことで、区内の感染者数も大幅に増加するという状況には至っていない。今年度に入ってから、コロナで事業実施を見送るということではなく、感染予防策を講じながら何とかして安全に事業を進められるよう工夫して取り組んできて

いる。例えば昼どきイベントせやとして、お昼の時間帯に公会堂で実施していたコンサートも昨年は休止をしていたが、発表の場を求める区民からの声もあり、入場の際の検温や間隔をとって観覧することで何とか再開し、今も開催を継続している。感染対策をしながらどう事業を実施していくのか、皆で知恵を出し合って進めている状況である。高齢者への支援についても、ワクチンの相談ブースを庁舎内に設置し、局から相談員が配置されているが、区役所の各所属にも相談の問い合わせが寄せられている。管轄業務ではなくても可能な限り情報をお伝えしたり、総務課職員を中心にスマートフォンを使った予約方法についてもお教えするなど、工夫をしながら細やかに対応している。また、福祉保健課の保健師を中心に感染者に対するフォローや感染予防対策を行っているが、他所属からも応援体制を組んでいる。またいつ感染拡大の状況になっても、職員の健康も維持しながらしっかり対応できるよう区として取り組んでまいりたい。

花上議員：初めての対応なので戸惑いや苦労があったと思う。消防署の職員から感染者が出たとのことだが、区役所職員で感染事例はあったか。

鈴木総務課長：これまでのところ感染者は出ていない。

花上議員：コロナ禍で生活困窮に陥っている、あるいは企業の経営難が深刻化しているというケースが増えている。その中で瀬谷区の商店から区役所に対してどのような声が寄せられているのか伺いたい。

岩上地域振興課長：特に飲食店から多くの声をいただいている。現状、横浜市内では時短営業やアルコール類の提供制限について要請されているが、その中で横浜市では昨年のゴールデンウィークからテイクアウトに対する補助金を継続している。各商店で苦労をしている状況にあることから、できる限りの支援を続けてまいりたい。

花上議員：特に飲食店において苦労しているという話を多く聞いている。暮らしを守るという点では、商店以外にも日々生活している区民の方々に寄り添っていくことも大切である。区政全般を見渡し、生活に困窮している方々に寄り添い、手を差し伸べていくことが区役所の役割であるが、総論としてこの間どのように対応してきたか。

植木区長：ぎりぎりの状況で立ち行かなくなってから相談に来る区民も多く、これからも様々な広報のチャンネルなども使いながらどこに相談

したらよいのか、また実際に立ち行かない状況に陥る前に相談してもらえるよう周知することが必要と考える。市でも様々な補助メニューを設けているが、中にはそれを必要としている方に情報が届かないケースもあることから、市だけではなく身近な区役所でもPRを続けてまいりたい。

花上議員：生活に行き詰って自死する方もおり、自殺者が増加しているという報道がある。死を選ばなければならないという極限的な状況に追い込まれる前に周囲が気が付くことが重要である。区役所でそのような相談を直接受けたり、自治会町内会からそのような兆候がある方の情報が寄せられた場合には的確に対応してもらいたい。区民の生活に寄り添うという区役所の基本的役割のもと、しっかりとした対応をお願いしたい。

ワクチン接種に際して万全の体制を期するだけのマニュアルもない中で、医師会や薬剤師会、医療関係者と綿密な連携を図りながら接種を始めたところで、瀬谷スポーツセンターにおいて119人に対して常温のワクチンを接種してしまった。7月中に市内97万人の65歳以上の高齢者に対するワクチン接種を終えるとのことだが、その見通しについて伺いたい。

鈴木総務課長：現時点で123万回の予約を受けており、これは計画の146万回に対して84%の状況である。ハンマーヘッドで大規模接種が開始され、個別接種の医療機関も増えてきていることから、7月中には接種を終えられる見通しである。瀬谷区内で個別接種を受けられる医療機関数については、直近で公表されているものは16であるが非公表のものも合わせると35あり、予約が取りづらいという状況も解消されてきている。

花上議員：ワクチンの予約が始まった時期には相当の苦情が寄せられたと思うが、区役所ではどのような状況であったか。

植木区長：年度初めで区役所からの郵送物も多い時期と重なったこともあり、担当外の所属にも多くの問い合わせがあった。また福祉保健課でも長時間に渡って電話口でお叱りの声を受けたこともあった。広聴の件数も増えているが、状況は区政推進課長から説明させていただきたい。

堀内区政推進課長：広聴の件数も増えているが、区役所の総合案内窓口において5月17日以降ワクチンに関する問い合わせだけで約1,000件あった。また市のコールセンターから広報相談係で転送を受けたワクチン

に関する電話が5月10日以降約120件あった。広聴については5月末までの集計でコロナに関するものが242件あるが、うちワクチンに関するものは4月に7件、5月は29件である。

花上議員：現在個別接種を受けられる医療機関が35あるとのことだが、かかりつけ医や地域の病院の協力があって個別接種が始まった。個別接種を実施していない医療機関では実施していないことに関する苦情もあり、医療機関としても苦慮しているのではないか。地域の小規模の診療所にとっては、かかりつけ医としてワクチン接種を求められても、診療所の従事者数が少なく対応できないことについて戸惑いの声が上がっている。7月中に高齢者への接種を終えるためには集団接種会場だけではなく、個別接種が不可欠であるが、個別接種を受けられる医療機関を増やすための取り組みは行われているのか。

鈴木総務課長：局において医師会を通じて個別接種の医療機関を増やすための取り組みを進めており、市では1,700医療機関を目標とし、現状では1,500医療機関の協力が得られている。現在も引き続き協力の要請を行っており、瀬谷区内でも今後更に多くの医療機関の協力が得られるものと考えている。現状の体制でも7月中に接種を終えられるだけの枠は十分確保できているが、身近な医療機関でより多くの方が接種できるような取り組みを局で進めている。

花上議員：区の福祉保健センターとしての特徴的な取り組みはあるか。

高野福祉保健センター長：ワクチン接種後にアナフィラキシー症状が出た時の対応について、殆どの医療機関で準備ができています。瀬谷区医師会も乳幼児健診を含め全員参加で非常によく協力してもらっている。

花上議員：瀬谷区医師会からの協力について非常に心強く感じている。全員参加でワクチン接種によって感染拡大を防ぐという強い決意を医師会長からも聞いている。ただ未だ収束する状況にはないため、区役所をあげて感染拡大防止に引き続き取り組んでもらいたい。また、三ツ境駅と瀬谷駅から集団接種会場であるスポーツセンターまでのシャトルバスの運行については、かねて健康福祉局長と区長にもお願いしたところであるが、これが実現されたことについて区民から感謝の声をいただいている。この場を借りてお礼を申し上げます。

備 考

